

第7回未来ビジョン会議

- 1 日 時 令和元年11月18日（月）午後7時から午後8時30分
- 2 場 所 伊東市役所2階中会議室
- 3 出席者 伊東市未来ビジョン会議委員18人
市長、中村副市長、若山副市長、高橋教育長、企画部長兼市長戦略監、
理事、
事務局（行政経営課長、行政経営課課長補佐、行政経営課主査、行政経営課主事）
コンサルタント（地域まちづくり研究所 3名）

4 会議次第

- (1) 開 会
- (2) 市長挨拶
- (3) プレゼンテーション準備
- (4) プレゼンテーション
 - ・各グループ発表
 - ・意見交換
- (5) 閉 会

5 会議概要

(1) 開会

定刻になりましたので、ただ今から、令和元年度第7回未来ビジョン会議を開会いたします。

本日は、ご多用の中、ご出席いただき誠にありがとうございます。

それでは、小野市長から、挨拶申し上げます。

(2) 市長挨拶

皆様とお会いするのは、6月に開催した1回目以来となります。

昨年度までの未来ビジョン会議では、ワークショップからプレゼンテーションに至るまで、これほどの期間が空くことはございませんでした。

それだけ、今回のワークショップのテーマである「第5次伊東市総合計画策定に向けた協議」については、多くの協議を必要とする非常に重要、かつ大きなテーマであるということでもあります。

皆様には、これまで副市長・教育長からの説明を通じて、伊東市の現状や課題について知識を深めていただき、ワークショップにおいて、伊東市の強みや弱みの分析や、伊東市の将来像等について、御議論いただいております。

本日は、その集大成としてプレゼンテーションを行っていただきます。

本市の将来を担う若き希望である皆様が、本市の将来像をどのように描いているか、非常に興味深く楽しみにしています。

各グループから出されたご意見については、今後、第5次伊東市総合計画策定の参考にさせていただきます。

皆様におかれましては、これまでの議論を通じてまとめられた御意見や御提案など大いにお話しいただきたいと考えております。

それでは、本日はよろしく願いいたします。

(3) プレゼンテーション準備

それでは、プレゼンテーションを19:20分から開始します。それまでの時間、発表の仕方を話し合ったり、まだ、模造紙が完成していないグループは、模造紙の作成を進めてください。

よろしく願いいたします。

(4) プレゼンテーション

● 1 グループ（医療・健康・福祉等の分野）

私達のグループは医療・健康・福祉という誰でも困った経験がある身近なテーマで話を重ねてきました。このテーマの問題点は外に見えてこなかったり、個人や家庭の問題だったりしますが、緊急性の高い問題が多いという共通点が見えてきました。外に見えてこないのはどうしてなのか考えたとき、情報が欲しいと思っている人の所に届きにくい、情報を届けたいと思う側の情報がきちんと伝わりにくいという点が見えてきました。医療・健康・福祉の中でも、子育て・障害者福祉・高齢者福祉・生活困窮者の問題などいろいろなテーマがあります。困りごとを抱えている方々は困っていることを伝えるのが難しくなっていると感じました。

市民病院の施設は充実していますが、もっと安心して頼れる市民病院になって欲しいです。今予防がうたわれているので、予防医療に力を注いだり、行くといいことがあるような健診や地域活動をしながらか参加できる健診があったら良いという意見が挙がりました。

「バーズあんどビーズ伊東」という、十代の子がラインで相談できる窓口を子育て支援課さんがやっています。今日も商業高校に伺って啓蒙活動をさせていただきました。市内の小中学生、十代の子の手に届くように配っていますが、活用が上手くいかなかったりします。ある学校の子に紹介した時に、どうやったらもっと使って貰えるか聞いてみました。毎週水曜日の14時～17時が相談日ですが、いつでも相談できるのがラインの良い所なのに、水曜日1日だけなのは相談しにくいと意見を貰いました。それがここにも表れてくるのかなと思いました。相談したい人が相談したいときにできていないように思います。

子育てや医療など、困ったときに教えてくれる所があったらいいのにと話していました。伊東市の市政戦略課が「With」という市民便利帳を発行していますが、皆さん見た事がありますか？ゴミカレンダーの所や回覧板等で配っているかもしれません。写真も入っていてすごく分かりやすい便利なものです。これがキチンと皆の手元に行って活用されるようになると思います。

自分から能動的に情報を取りに行ける人もいるし、持って来てくれた情報をやっとなキャッチできるような人もいます。どちらの方法も必要なのではないかとということで、伊東でできることを考えてみました。空家や空き店舗にマチカフェやテントを使ってコミュニティとして、リハビリや子ども食堂、教育支援をしてみたらどうでしょうか。子育て世代や高齢者が地域で居場所をつくれることが求められており、空家を活用し居場所づくりを提案します。

他の方補足を願います。

医療・健康・福祉は本当に多岐に渡って、生まれたばかりの子どもからお年寄りまで全ての人に関わる内容になっています。話し合いの中でこれという一つの答えが出ないのが正直なところでした。それが私達の中でまでもやもやとする部分です。

情報共有という所で、市だけではなく民間や地域住民が一体となって、困っていること、助けたいことをすぐやるべきことが必要になるのではないかという話になりました。

例えば申請をするにしても知らなければ申請ができない、でも申請がなければ助けが来ないという所が問題です。一旦こういう制度があるということを広く知らせる手段が大事ではないかと思えます。

今回、こういう場に参加させていただくことで、発言できたりいろいろな方の意見を聞けたりしました。介護予防や子育て関係、産後ケアの講座や教室に足を運べる方もいますが、中々外に出てこれない方の声も直接伺うことで聞けることもあると思うので、そういった情報を知ることと、届ける事の重要性を改めて感じました。

多様な社会の中で求められることはたくさんあって、明確な方向性を1つに絞れなかったのですが、そこを引きつづき行政や市民が一緒になって考えていくのが大事だというのがグループ1の出した方向性でした。

市長意見：現状の伊東市をよく見据えていただいて、将来的なこと、これからの提案ということでした。生活便利帳withは全戸配布なので全世帯に届いていますが、皆さんがそれほど大事に思わないことは問題です。これはすごく便利だとお伝えしながらお配りする、あるいは個別で困ったらこれを見てくださいますとお伝えする広報活動が足りなかったことを反省いたしました。また、色々書きこんでいただいた中にも気になる点がありますが、基本的には地域のコミュニティをいかに保っていくか。現在伊東市の高齢化比率は42.0%であり、ますます上がっていくことが予想されています。独居や老々介護などの世帯もこれからは増えていきますので、若い世代や子ども達との交流をすることでまたいきがいを感じて貰ったり、健康志向になっていただいて医療費を抑制したり、若い世代がこういう温かいまちなら越してこようという気持ちになったり、もっと言えば高校を卒業して大学進学して、その後帰ってこようと思っただけけるようにするのが大事だと感じました。

私は公約で子育て世代を応援する事を言ったので、3年前と比べると相当変わっていると思います。例えば5歳児の教育費を無償化しました。私はそれで出生数が減る事はないと思ったのですが、平成30年度から本格的に始めて、平成30年の出生数が前年より40数人落ち、とうとう300人を切って273という今まで経験のない数値になっております。どこにいてもお聞きするのですが、どんな形がお子さんを育てるのに望ましい環境であるのか、誰も明確に答えられません。私にも息子が2人いまして子育て中でいろいろ言うのですが、お金だけではないということがこれではっきりしたので、どういう環境があればお子さんをもっと産んでいただいたり、そういう世代が移り住んでくれるのが大きなテーマになっております。第5次総合計画には子育てしやすいまちを目指すとか、あるいは高齢者のことは前から触れていますので、新しい住民をどのように呼び込んでいくのか、そういう事の根幹にあるのは医療や福祉、健康、子育て支援ではないかと思っています。今日発表いただいたことで、質問してしまうと皆さんそれぞれ意見があると思いますので質問はしませんが、これで終わりにせず気が付いた点がありましたらいろいろな形でまた伝えていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

● 2 グループ（都市、中心市街地、環境等の分野）

大きな理想は「ひ孫と暮らせる街伊東」で、全世代と一緒に暮らしやすいまちをつくらせていけたらという意味合いを込めています。

まず都市から話をさせていただきます。都市については土地利用と交通の観点で、理想について考えました。目標として人口10万人を掲げています。土地利用については、遊休地等がうまく活用されていること。市民向け施設が充実していること。観光客は来てほしいですが市街地は渋滞が発生するので渋滞がないこと。温泉地を活用した観光系の専門学校があること。これは若者が伊東市からなるべく出ないで貰いたいという思いを込めています。また、キャンプの街伊東は、今グランピングが全国的に人気があるなか、伊東も活用する場所が多いことからキャンプ地として最適なまちになると良いと考えました。

これらの理想を実現するために、行政ができる事としては、空家バンク。それから、市内に農地が余っている場所が数多くあることから、農地を一般人が借りられたり買えたりできる仕組みをつくることで、施設等も増えて住みやすいまちになると考えます。さらに企業誘致をするための固定資産税の免除。先ほどもお話させていただきましたが、専門学校の誘致も行政で考えていけたら、若い人ももっと伊東市に来て、住んでくれる方も多くなっていくと考えます。

また、交通に関しては、市バスの割引導入や行政が民間事業者を支援することにより理想の実現に向けて進めて行けるのではないかと考えます。難しいとは思いますが、新幹線が停まることや伊東モノレールが開通。市外の方がもっと伊東に寄ってくれれば、交通の便も良くなります。それから伊東市民バス。バス、タクシー、電車キャッシュレスの環境を作っていけたら、住みやすい都市になっていくのではないかと考えます。伊東市は高齢者や車を運転しない方がいて買い物をするのに困っている人が多いので、スーパーとか病院とか行政の方でシャトルバスを出したり、移動型のスーパーをつくっていけたら高齢者の方々にとって住みやすい都市になっていくと考えます。

そのほか、建設課で仕事をやっている、子どもの通学路等で街路灯が暗いという意見も多いです。街路灯は基本的には町内会長さんとかにつけさせて貰っているケースが多いですが、行政の方で補助も強く進めていって、街路灯の設置等で安全安心できる都市にできたらいいと思います。僕も子どもがいて子どもがいる友人も多いのですが、伊東市から離れて遊んでくる方が多いので、もっと公園の整備を進めていったら伊東市の中で遊んで、お金を使って暮らしてくれる方が増えると思います。以上が都市の中の理想を実現するための取組となります。

続きまして中心市街地については、「駅前活性化」「これだ！！というもののある街」「回遊性の高い街」「鎌倉みたいな商店街の空きがない」「大型集客施設」「企業の設置」を理想として掲げています。そのために各団体の一本化、集約を考えて行くことが必要ではないかと思えます。また行政や他業種との連携により進めていけたらよいと思えます。また、伊東市は温泉施設が数多くあるので、観光施設とコラボを進めることを考えました。今、伊豆急と共同でウォーキングをやらせていただいたり、ウォーキングコースを設定した色々な計画がありますが、もっとウォーキングコースの再整備を進めていって大人も子どもも一緒に歩けるようなコースをつくらせていけたらと思います。またオープンマルシェや夜市の環境づくり、政策を進めて行けば、交流人口も増え、中心市街地の活性化に繋がると思えます。3セク指定管理も進めていけたらと思います。

続きまして環境分野については、住環境と防災の観点で考えました。伊東市はとてもいい自然環境・自然景観があるので、それが維持されていることが理想です。また、「防災の街伊東」ということで、一流の防災体制が整っていることが理想です。具体的には、避難所の充実、防災センター・同報無線・避難車両の整備です。台風15号・19号の時は避難所に来る方が多く、市役所にもかなり多くの人が出て、避難所を別の所に増やしてというケースもありましたので、もっと避難所の充実として防災センターとかの整備を強く進めていく必要があるのではないかなと思います。また避難所に行くまでの道の整備を進めていくことで、車を使えない高齢者の方などがすぐに避難できるようにしていく必要があります。

また、より良い住環境のため、行政にゴミ収集箱・倉庫等の設置を進めて欲しいと思います。そして市民がごみ分別とごみ収集場所の管理維持を進めていけば、住環境が良くなるのかなと思います。

防災活動として、消防署の定期的な訓練、講習会を行い、消防団の経費を拡大して自警団としての力を強めていく必要があると思います。

補足はございませんが、1点だけ、固定資産税の免除に関しましては我々の方のアイデアで彼は言われているだけという所をご笑納いただいて冬の査定には響かないようご配慮いただければと思います。

市長意見：とても分かりやすくユニークな点もありました。皆さんがいかによく議論されたかというのがよく分かりました。土地利用のところでは、人口10万人、観光客がたくさん来るけど渋滞がない、専門学校の誘致、これは伊東市から若者が出ないように高等教育もという事だと思えますが、まさしくこれは今の総合計画にも盛り込まれていないかと思えます。これから策定するにあたり、現実に即したものをしっかりつくっていくことが大事なことだと思っております。そういう中でできること、例えば企業誘致策として一定期間固定資産税の免除はよくあるやり方です。伊東市内には自治体や企業の持っていた保養所が空き状態のままになっていますので、そういう所を活用して、例えばIT企業のサテライトを持ってくるとか、そういう形で企業誘致ができるのではないかと考えておりましたので、参考にさせていただきたいと思えます。専門学校については、タウンミーティングでも県立大の何かを持ってくるぐらいではないかと言われまして、例えば短期コース、あるいは理容・美容といったものであれば場所を問わないので、女性に人気があるような職種を選ぶと、きっとまたいろいろな意味で人口が増えたりするのではないかという事をお話させていただきました。また、新幹線が停まるについては、たまに言われますが、非現実的でございます。その下にあるモノレールは割と規制が少なく傾斜がきつなくても線路を引く事ができますので、全然夢ではないと思っております。また先ほど伊東市民パスというのがありましたが、これから高齢者が増えて免許証を持たない方が多くなってきた場合は有効な手段だと思っておりますので、そういうことを進めていきたいと思えます。それから、中心市街地については、中心市街地という概念がないとありましたが、これは旧温泉場がいいと思えます。象徴的なのは東海館であります。そこを中心に今イルミネーションをやっております。レトロな雰囲気な所に来て歩いてみたいと思っております。どうやって仕掛けるかということで今進めております。また、伊東の駅前活性化、これだ！というものは、まさしく駅周辺の再整備に尽きるのではな

いかと思いますが、これについても今色々調査をかけておりますので、おそらく今度の総合計画が終了する頃にはでき上がるのではないかと期待しているところです。色々ご提案がありますが、やっているものもあります。先ほどの福祉健康医療の中でお話ししましたが、情報が伝わっていないんだなと思いました。伊東市がやっていることや国が進めていることを、皆さんにお知らせするのがいかに難しいことなのか感じました。ぜひこれから勉強させていただきたいと思います。環境分野では、自然環境については、現状の報告を見ましてもどのグループにも載っておりまして、やはりこの自然環境を守っていくこと、あるいは台風のようなときに住民の皆様安心して避難していただいたり、あるいはその後の対応についても、伊東には消防団組織があったり、自主防災会もきっちり整備されていますので、そういう所への力の入れ方、言ってみれば予算のかけ方になりますが、そういうものやっけていくべきだと思いました。ごみについては、ふれあい収集というのを始めました。これは介護度が2以上の方が対象となりますが、ごみをご自宅まで取りに行くサービスです。見守りも含めて声を掛けるということで、職員が進んでやったものでございまして、こういうものを普及していくことがこれからの高齢化社会にも必要になると思います。いずれにしてもこの先10年間の大きな問題は人口減少で、移住の方、それから若い世代に向けたUターン、Iターンの環境をいかにつくっていくのがテーマです。大項目にひ孫と暮らす街伊東とあります。要するにひ孫と暮らすまで元気でいなければならない、あるいは、伊東は温かい家族的なまちだということ表現していると思いましたが、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

● 3 グループ（教育、歴史、文化・スポーツの分野）

大きな理想として「人が育つ未来のまち」を掲げました。歴史・教育・スポーツは小さな子どもから高齢者まで何歳になっても共通していつまでも学んでいけるようなものなので、それぞれの分野で人と人がつながりあってお互いに育って行けるようなまちになったらいいなという意味合いが込められています。

まず、自分たちが主体的に取り組めることについてですが、歴史・文化では、祭り文化の伝承です。伊東市にはお祭りが何種類かありますが、子どもの頃から伊東の祭りや伊東の歴史を教える機会があったのか考えました。伊東の歴史・文化がテーマとなる絵本や本、紙芝居を製作し読み聞かせる活動を市民団体やNPO団体に協力を仰いだり、中高学生に実際に作ってもらって幼稚園・保育園・小学生などの小さな子ども達に伝えていったりする活動なら自分達でできるのではないかと考えました。

教育分野では、時代が変化していると感じています。小学生が早いうちからタブレット、PC、スマートフォンなどで情報検索できてしまうことはメリットもあるのですが、怖い所もあると思います。情報教育に関連する所で、市民団体が出前授業という形で学校の授業の一環として子ども達に良い所・危ない所を伝えることなら私達でもできるのではないかと考えました。また、学校に毎日楽しく行ける子どももいれば、なかなか足が向かない子もいることから、心・体のケアの方法を勉強します。キャリア教育として、自分達の近い目標や大きくなった時の将来的な自分の理想の姿を考えるような授業があり、それを市民団体・市民・保護者などが講師となって協力していけたらいいという意見ができました。

学校統合の話が出てきていて、子ども達の部活の選択肢が限られてしまっています。自分が行く学校にやりたい部活がないという話も聞いています。部活が減ってしまう理由

が、子どもが少ないからだけになるとどうにもならないですが、中高が連携して交流しながら部活をしたり、指導できる一般の方に協力していただき校外学習をしたり、部活動を盛り上げたりすることなら、私達もできるのではないかと考えました。

次に、行政に期待することということで、歴史・文化・スポーツの3つの観点からお話をさせていただきたいと思います。

まず歴史文化に関して、分化を継承するうえで、まちおこし団体などへの支援を厚くしていただきたいことと、先ほどの未来ビジョン会議でもテーマになりましたが、伝統文化を発表する場としてコンサートホールを整備していただきたいです。

スポーツ分野では、行政に合宿の聖地としての伊東を目指していただきたいです。合宿がしやすい環境として、スポーツ施設・体育館・市民体育センターの整備、グラウンドの人工芝化です。例えば、かどの球場がありますが今公式ができない状態になっています。公式にさせていただくことによって大学野球のキャンプ地になったり、プロ野球選手の練習地になったり、湖西で強豪高校を呼んで交流戦が行われているように、そういう事も可能になってくるかなと思います。伊東には海も山もあり温泉もあり、多くの人が合宿にきてお金を落としていってくれるのではないかと考えています。例えば小中学校の合宿であれば当然親もついてくるので、ホテル等を利用することでより観光収入も手に入るのではないかと思います。参考に本校でのバレーの合宿は、1年間で7回あり、来た生徒の数は1,150人程度です。ミニバスも県外・市外から試合に来たいというチームが多くあるそうですが、施設の関係上お断りしなければならない現状があると聞いています。そういった人達を多く受け入れるためにも充実した設備をつくることが必要不可欠でありぜひ行政にやっていただきたいと思っています。

教育面では、小中学校からいろいろな技術が入ってきているなかで、環境の整備をしていただきたいという意見が多く出てきました。例えば、校内無線LANやスクールカウンセラーの充実などです。新構想高校への積極的介入をぜひともお願いしたいです。市と県という事で大変なのは分かりますが、県立高校として市内1つの高校になるので、新構想高校が失敗に終わってしまったら伊東に高校生は残らなくなってしまうと思います。将来地域を担うリーダーが市外に流出してしまう可能性があると思います。そうなる若い世代を何とかしないとといってもどんどん市外・県外へ出て活躍するパターンが多くなってしまっていると思います。中学校の保護者からもかなり不安の声がでています。市との協力体制を築いてほしいと思います。最終的には地域の子どもを地域で育てるような環境づくりをします。その起爆剤にぜひ新構想高校を推していただきたいと思います。その新構想高校の中で例えば小中高連携で部活動をやれば、例えば中高生が小学生に対して部活を教えることも可能になってくると思います。地域を盛り上げるために若い世代のリーダーを作る為に新構想高校への積極的介入を外せないと思います。現在高校と市や地域企業との連携が密にある方だと思っています。連携の姿勢を新構想高校政策にもつなげていただいて、地域でリーダーとなる人物を育成することで少子高齢化問題の解決にも繋がってきます。小中高魅力ある教育環境づくりを目指していただきたいと思います。

市長意見：伊東にはいろいろな時代の歴史が残されています。これから私達が守っていくと同時にまちおこしや観光につなげていったり、教育の題材にしていくのが大事ではないかと思っています。新しい総合計画にも書き込みたいと思いました。文化ホールについても公約ですので、なるべく早い段階でやりたいと思います。スポーツについては市民グラウ

ンドを人工芝化するのですが、その後に運動公園のようなものをつくりたいと思います。小中学校も統合していきますので、残された学校を有効利用する意味では合宿の誘致は、現実的に可能な事ではないかと考えております。

教育長：発表ありがとうございました。聞いていて今後の教育行政に活かせるものがたくさんあるなと感じました。まず「人が育つ未来のまち」という題が素晴らしくて、こういうまちになってくれるといいなということを強く感じました。歴史文化・教育・スポーツと分けて話をさせていただき、どれも感銘しました。歴史文化分野の、祭り文化は伊東にとって大切な所です。市の祭りが無形民俗文化財になっていることから、伊東の祭りを改めて大切にしなければいけないと感じました。教育にそういう部分を活かせればと強く感じました。教育につきましてはここに書いてあるとおり、皆様方地域の力を借りて、学校教育・家庭教育・社会教育の3本が一致団結して子ども達を育てていかなければいけないと感じました。残りについても、出来る部分はしっかり取り入れていきたいと思っています。スポーツ分野に部活動の事がありましたが、大変難しい問題もありますが、伊東の子ども達が部活動をがんばっているなかで、今後外部支援員の協力をいただき更に活性化していければと思いました。

新構想高校は非常に大切なことですので、県の教育委員の所管になりますが、伊東で要望について県の教育委員と連携したり市民の皆様のご意見をしっかり伝えて、伊東にとって必要な高校、子どもにとって素晴らしい高校になるように皆で知恵を出し合っていければと思います。これからの教育行政の参考にさせていただくうえで本当に素晴らしかったです。ありがとうございました。

言い忘れてしまいましたが、先ほど小学校の統廃合の跡地の利用ですが、私たちが考えたのは、そちらを合宿施設として子どもを泊め、親はホテルに泊まってもらうのもありだと考えました。

● 4 グループ（観光、農林、水産、商工等の分野）

観光・農林・水産・商工についてのプレゼンを始めさせていただきます。今までの皆さんのものより、大分民間寄りな部分が必要になってくるジャンルだと思っています。観光を盛り上げることで農林・水産・商工が盛り上がるという考えをしています。あくまで民間と行政とタッグで必ず進めていかなければいけないもので、土台の部分で行政にこういうことをお願いしたいものを書かせていただいています。「柔軟性と多様性・可能性のある街」とまとめさせていただいたのですが、観光が潤う事で農林水産商工が潤うのではないかという所が冒頭にございます。

真ん中に「脱！古い考え」と書かせていただいております。これだけだと分かりにくいと思ったので、全体的な若返り、文化レベルを向上させること、アイデアを実現させやすいことを掲げています。若返りするための問題は高齢者問題です。現状の高齢化率の問題もありますので、どこからを若年層と呼ぶかは地域によって違うのかもしれませんが、そういった所の意見を聞くような風土をつくっていかないといけないと思います。文化レベルの向上は、観光の中でもすごく大きな課題だと思っています。これは偏見と差別です。偏見や差別はないと皆さん思いますが、空港で働いていたときの外国人と日本人のマナーの差がすごかったです。日本やアジアで、中国の方に対してマナーレベルを低く見積もっ

ている方が多いと思います。中国では教育上なかつただけで、お願いすればすごく丁寧にやってくれます。一番マナーが悪いのは日本人です。分かりやすい実例だと、10年程前からコンビニに生まれた並んでくださいのマークです。日本人は必ず並んでいる所を自分で見つけていました。今は皆さん、空いているレジにすぐ行こうとするのでランドマークができてしまったのです。先進国の中でランドマークのあるコンビニは少ないです。それが日本にあるという実態をきちんと考えなければ文化レベルは上がらないと思います。アイデアが実現しやすいについては、新しいものへの批判が問題として挙がってくると思います。例えば、最近レンタル自転車に至る所に出てきましたが、日本でやり始めたのはすごく遅いです。世の中では、モーター付きのキックボードをレンタルしている国が多いです。先進国やG20の中でやっていない国は3カ国しかありません。そういったものを伊東ができるようになれば、色々な所に結びついていけるのではないかと考えます。例えば、姉妹都市を増やす。どこと姉妹都市になっているか分からないとか、姉妹都市になるメリットが見つからなかったです。なぜ挙げたかという、とにかくすごい量の姉妹都市をつくれれば、伊東のことをいろいろな所に発信できるのではないと思うからです。さらに碎けたSNSやメディアへの発信が必要であり、今の観光課だけではなく、きちんとした広報チームを設置して貫くことが重要です。伊東の名前を外に出すプロモーション。宮城にいたときに、伊東に行くならハトヤというCMで伊東の名前を知りました。宮城にまで届いていたのでそういった物が必要だと思います。民間としてミニイベントツアーや接客クオリティの向上。伊東の方が行って心地よいお店は観光客が行って心地よいお店ではありません。必ず気をつけないといけない、向上させなきゃいけないことだと思います。外の情報収集、流行への感性を民間が身に付けていかなければいけないと思っています。それと同時に広報チームを設置していただければその中の広報の市民担当を決めて、多分市の方ではどうしても限界が出ると思いますので、民間から発信できる風土をつくれれば良いと思います。

農林水産の方でいうと、大学と連携して従事者の確保を行っていく。若い人が就職できるような働きかけを行う。リアルな提案ですが、魚が獲れないと水産が成り立たないので、稚魚放流を行う補助金を増やしてはどうでしょうか。民間では体験ツアーの実施、農泊、漁業などの体験、外国人への積極的なプロモーション、こちらは観光としても雇用としてもです。魚市場の観光スポットができればいいのではないかとこの考えがあります。中心市街や都市の開発でもありましたが、空き店舗を市で管理することができるのであれば、それを活用して店舗誘致活動をどこかの民間会社が担い、気軽に商業を始められるきっかけをつくりだすことができるのではないのでしょうか。各商店街とも調整をいろいろ増やしていけます。対店舗・ホテルに向けて外国の方をもっと誘致しようと思っているので、外国の文化を学ぶ研修などを市や商工会議所等が主体でやってくれたらいいなと思っています。民間から新しいアイデアの発想や発信が必要になってくると考えております。こういったものが解決するのは難しいと思いますが、前向きにとらえていければ観光の賑わいによって農林・水産・商業が潤う、つまりは悪口が出ないまち、また来たいまちになるのではないかと考えています。全員で話したときにあったのですが、伊東に遊びに来た方に対してなんで伊東に来たの？とか、伊東の何が面白い？と聞く方がいます。自分達がそういうふうにするということは、また来たいまちにはなりません。また来たいまちにするためにはこういった所が必要で行政の方達にこういった部分で協力いただければと思います。

実例で貼らせていただいたのですが、アンブレラスカイというものをいろいろな地域でやっていて有名ですが、元々はポルトガルのアゲタという地方でアゲタグエダという美術の祭典とあるデザイナーがやりました。この町はすごく寂れていましたが、観光収入がアップし、閉まっているお店が全部開いて、今ではいろいろな国のいろいろなお店が入っています。個人的にすごいことをした町だと思っていますが、北海道の東川町では、廃校を日本で初めての公立の語学学校に変えました。塾です。外国人の受け入れをされていて、入学費用が圧倒的に安いです。同時に市が持っている施設を外国人の寮にしています。その結果、人口が14%増えました。ここを卒業した生徒さんがシャッター店舗を使って自分達の国の料理屋をやっています。観光客が行って面白いまちにもなっています。元々1万人もいなかったまちですが、この数年で1万人を突破したそうです。有名な話ですが、youtubeで100万回再生された大分の遊園地を温泉にする企画です。クラウドファンディングで8,200万円以上集め、8千円以上投資した人が招待されるシステムです。3日間で1万2千人が訪れました。これだけの数の方が宿泊されて、お買い物をしてこれ以上の経済効果があるというものを大分の別府市が企画したものです。これは町の方が全身金のタイツを着て100人で運動をやる企画です。いろいろな理由があるのですが、盛り上がりはしますが、結果的には内に向きすぎていて自己満足で終わってしまったパターンです。面白いのですが、外国の方や観光客が体験することができなかったのが厳しいのかなと思います。ご年配の方々がこういうことをやっている姿は、胸を打って良いなと思ったので、ユーモア性、ユニーク性、柔軟性があるといいと思いました。観光農林水産商工なので、必ず民間とのタッグが必要になりますが、民間の意見が、若返り、文化レベル、アイデア実現しやすい所が向上していくなか、また向上しない所もあります。それをお互いに向上させていけるようなシステムを市でもつくっていただき、プロモーションや観光の適材適所とかやっていけたら今後上向きになれるのではないかと思います。

今回農業関係の方が入っていないくて農業の話もなかったのですが、遊耕地が多いようなら、そういう所の再利用として民泊との併用で週末だけ観光の方が来るような家庭菜園とか、事業をやってもいいと思います。

市長意見：グループ4の皆さんありがとうございました。一番民業に近いと言いますか、夢のある様な話も多かったと思います。大きなテーマとして柔軟性と多様性・可能性のある街を掲げていただきました。まずショッキングなのは脱！古い考えは、なかなか割り切れない、発表者と日頃接していますので慣れてきましたが、歴史や伝統、自分が育った環境などを脱ぎ捨てるのは難しいと思っておりました。いろいろな意味で外から見ていただく伊東の魅力とかをいろいろな方に教えていただくなかで、気が付かない点がいっぱいあります。高齢化社会に対して若返りしていくのはまさしくそうですし、文化レベルを向上させるには偏見や差別があってはいけない。アイデアを実現しやすいという形を、自分達がネガティブキャンペーンをはるような、例えばあまり人がいかない観光施設でも個性があって面白いという表現とか、いろいろな形でアピールできると感じておりましたので、次の総合計画に入れ込んでいきたいと思っています。ご提案をいただき皆いいなと思います。姉妹都市を増やすについては、定義があり毎年総合交流が必要で、例えば北海道や沖縄と結んでしまうと、行ったり来たりお互いお金がかかるとかありますので、そういうことがないような姉妹都市交流、あるいはネット上で繋がるとかもできるのではないかと思います。大分県臼杵市に行ったときにたまたま入った古い倉のような店舗で、メインメニュー

に（伊東漁協のサバを使った）伊東ナゲットがあった。なぜだろうと思ったら、facebookで繋がり、今では一番人気とのことで、そういう時代になったんだと痛感した場面でもありました。可能性はいろいろな所にあると思いますので、柔軟性を持ち、多様性という点ではいろいろな自治体が行ったイベントや語学学校も、伊東市にも可能性があり、よその町のことだと思わずに夢の持てるようなこの先の伊東市の起爆剤になる要素がたくさんあるなと感じました。ぜひまたこれからご意見もいただきたいのですが、実際に行政だけが決めたのではなくて、皆でつくった総合計画だということを逆に皆さんからも発信していただけるように、作成に至るまではまだ1年以上ありますが、今後また広く一緒に発信していただければと思います。

コンサル：今日は皆さんお疲れ様でした。ありがとうございます。非常にたくさんの意見が出てきたと思いますが、最後時間をオーバーしますが、もし皆さんの中で今日の意見や感想があれば聞きたいです。

委員：教育関係で学校誘致の意見が出ましたが、前の年の時から話があったと思いますが、進捗状況を教えて貰うことはできますか？

中村副市長：特に具体的に動いていることはなく、これからです。市長がおっしゃったように伊東市にとって必要だということは十分思っていますので、どういうものが一番いいのか考えていきたいと思っています。

委員：教育や合宿の聖地の件で、昔小室山にユースホステルがあったのをご存知でしょうか。私の学生時代も団体に所属していて、毎年夏に合宿をしていて、福島県広野町にも合宿に行っていました。伊東市で中高生レベルの子たちが毎年合宿できるユースホステルの様な場所があれば、観光の面でも潤うし、教育や芸術活動の場として活用され、子どもの心の教育的な領分でも潤うことができればいいなと思いました。

委員：教育の話があったので、CM混じりの話になってしまいますが、駅前の湯の花通り、仲丸通り、キネマ通り、中央商店街、あんじん通りに多摩美術大学と武蔵野美術大学の20人の生徒が合計65個の自分達の芸術作品をいろいろな店舗に展示しています。すでに生徒たちは伊東に来ていますが、今まで1回も伊東に来たことがありませんでした。今年からどんどん大きくしていったって、武蔵美・多摩美と呼ばれる、学力で言えば早稲田や明治くらいの2大巨塔になるビッグなネームの芸術大学の子達がインスタ等で伊東を推してくれています。参加店舗が45店舗位で、協賛金をいただいています。店舗達が未来に希望を持って、学生への負担は一切なしで作品を置いています。ただ学生にはSNSなどでお店のことを発信して貰う条件がありますが、学生は実費で来て設置しています。芸術に触れるとか、学校の先生などもいらっしゃるので、商店街でこんなことをやっていると広めて貰うのも、こういったお話の中に関わってくるかなと思いますので広めていただけたら嬉しいと思うのでよろしくをお願いします。

コンサル：どうもありがとうございました。今日で私共が関わるワークショップはひと段落となります。今日はいろいろとありがとうございました。総論的な話ですが、伊東市は県内

の有数な観光地であるということで、我々もどういった意見がワークショップで出てくるかなと楽しみにしていました。最後までまって皆さんの意見を聞いて、人、市民を大事に育てていく、育つような町になってほしい、あるいは市外の人達のいろいろな町に住む方々と、繋がりながらまちを育てて行くことが皆さんの意見の総論的なところだったのではないかと思います。そのために、健康で育つ町にするとか、若い世代をしっかり育てて行こうとか、そういう意見が含まれていたのがまとめ方だったと思いました。今日は総合計画をつくっていく途中の過程です。皆さんの意見を大事にして貴重な材料として総合計画の素案をつくっていき、しっかりしたものに作り上げていきたいと思っております。今日はありがとうございました。

(6) 閉会

事務局：それでは皆さん大変お疲れ様でございました。プレゼンテーションは以上となりまして、総合計画をテーマとした協議につきましては本日で一区切りとなりました。次回以降の未来ビジョン会議は、年明け後に開催したい予定でおりますが、年内に次回からの協議テーマにつきまして、委員の皆様アンケートをお願いする予定でありますので、ご回答の程よろしくお願ひします。郵送で送ります。併せて日程につきましても、改めて調整させていただきたいと思ひます。

それでは、最後に小野市長から挨拶申し上げます。

市長挨拶：本日は遅くまでいろいろと活発な意見をいただきまして誠にありがとうございました。本当に参考になったと思ひます。年内にこの会議は開催しないとのことですが、年が明けましたら皆さまのご希望に沿ったようなテーマを掲げてまたご議論をいただきたいと思ひます。フリートークみたいなものでもいいのですが、大勢の皆様がいらっしやいますので、例えば、この会議を市民向けにやっているタウンミーティングなども、市民の皆様が自分達が主役であるということを感じていただきたいというのが根底にありまして、公約として今後もずっとやっていくと言ひますので、皆さまが思ひていることが何かの形になるかどうか、そんなことをテーマにしていただきたいです。全てが叶うという事は有りませんが、方向性を出していく、すぐできる事に対して対応していく、それこそが私達ここにいるメンバーは偉い人ではなくて、責任者であり、皆さんがご提言していただいたものをして、結果が良ければ皆さまのお手柄でありますし、悪ければ私達の責任ということになります。実感をして貰ひたいと言ひ思ひでまた新年になりましたら新しいテーマでご議論をいただきたいと思ひますのでよろしくお願ひいたします。

事務局：お疲れさまでした。アンケートは郵送と言ひましたがメールかもしれません。気を付けてお帰りください。

以上